

◆平成19年度～21年度重点普及課題

担当者名：小澤明子・石川貴宣・與那嶺盛次・甲斐哲也・紫波俊介

1. 課題名

海ぶどう陸上養殖の課題改善

2. 課題選定の理由

海ぶどうは、恩納村漁協による技術開発後、平成6年から本格的な養殖が開始され、観光客や本土向けに需要が増加している。高価格で取引されているため、県内全域に養殖技術が普及し、近年養殖施設数が急増している。平成19年2月現在189の養殖施設が存在し、今後も多数の新規参入が見込まれている。

そんな中、需要の多い夏季に高水温が原因と思われる品質のバラツキが目立ち、供給量が需要を下回っているのが現状である。需要を満たすために粗悪品も流通しており、夏季の安定した生産技術の確立は急務である。また、海ぶどうが原因と疑われる食中毒の発生が毎年1、2件報告されており、衛生面の安全確保も課題である。

さらに生産者から、流通の安定化のため生産組合等、組織化の要望があがっている。

3. 活動内容（方法）

1) 生産技術の安定化

(1) 養殖場のモニタリング：全県

モニタリングに協力してもらえる施設を沖縄本島北部・中部・南部・宮古・八重山各地区選定し、養殖環境及び生産物のモニタリング調査を行う。

養殖期間中、データロガー（水温・照度）を設置する。養殖期間中の施肥状況（日時、種類、量）と、生産状況（収穫量及び製品量）の聞き取りを行う。

特に、夏季でも安定して製品を生産している生産者のデータを収集し、参考にする。

(2) 養殖試験：普及センター

普及センターの陸上水槽にて比較試験を行い、流量・照度・施肥量・栄養塩等、各条件による生産物の質及び量への影響を調べる。

(3) 母藻管理方法の検討：普及センター

施肥や期間、環境をかえ、夏季の高水温下でも安定して製品が生産可能な強い母藻を仕立てる方法を探る。

(4) 雨水対策：当該養殖場

大雨や台風時に雨水による被害を軽減する方法を探る。

2) 衛生指導：全県

衛生環境研究所と共同で衛生マニュアルを作成し、現場で指導を行う。

3) 情報の共有化：全県

生産者間及び生産者と県の情報交換の場として、年に1回生産者懇談会を行う。内容は、県で行っている試験研究の情報提供、海ぶどう養殖に関する課題の整理及び対策について等。

4. 年次到達目標

1) 平成19年度

・養殖現場における問題点抽出及びそれらの改善策検討

2) 平成20年度

・前年度の結果をふまえ、養殖試験の実施及び成果の普及

3) 平成21年度

・夏季における安定した生産技術の確立・普及
・衛生管理について各現場での周知・徹底